

▶ 川崎市制100周年記念プレ事業 「公募型福祉製品等開発委託事業」のご紹介

福祉のミライをカタチに！

本事業は市制100周年に向けた令和5年度のプレ事業として、ウェルテックと総合リハビリテーション推進センターの連携を基盤に福祉製品利用者・福祉専門職・企業等の「共創」により、福祉現場のニーズや課題を捉えた新たな福祉製品を生み出すことを目指しました。

株式会社ケアウィル

共創から生まれる 車いす利用者用レインウェア 製品化プロジェクト



ウェルテックでの当事者と試作を行う様子

製品開発の背景・目的

車いすを利用する川崎市職員から雨天時に使用できるウェアがないかと相談を受けたことを契機に、車いすに乗った状態で、独りで簡単に着脱が可能で、移動時も滑り落ちず、風でめくれない、また、持ち運びと収納がしやすい、そして、装いとして楽しめるレインウェアを開発することとなりました。

また、事前調査においても、大雨よりも小雨時の近所への外出に対する諦めの声が多く、生活圏での外出（ICFでいう「活動」「参加」）の後押しは当事者の自立支援になるという結果が得られ、市販品には日常で気軽に着れ、着脱し易く、車輪への巻き込みと風による捲れに配慮した服が存在しなかったため開発に着手しました。



中間報告会の様子

製品開発における共創の内容

「共創」による当事者に寄り添ったモノづくりとして、コンセプトやデザインに関する話し合いの後、川崎市南中北部リハビリテーションセンター、日本臨床作業療法学会、自社の車いす利用当事者（エバンジェリストユーザー）、田園調布学園大学・女子美術大学の教授や学生など様々な方に対してヒアリングを実施し、内容を基にプロダクトデザイン担当、プロジェクトメンバーとが協働し、3回の試作を経てデザイン要件を設計しました。

また、女子美術大学共創デザイン学科の講義の場で、車いすユーザーの声を聞きながら、あるべきデザインの形について学生とオンライン配信の視聴者が共に考える中間報告会を行いました。

取組において工夫した点

本事業における「共創」の主旨の通り、当事者、作り手、有識者との協働、特に川崎市内のプロジェクトメンバーとの協働を意識しました。その際、単なる役割や関与フェーズ分担ではなく、ものづくりの過程をともに共有することを意識しました。具体的には、チームミーティング、グループウェアを活用し、プロジェクトメンバーの一体感を醸成、維持しながらプロジェクト推進を行いました。

また、当社「ケアウィル」は care + will。相手を気遣うことや介護・看護を意味する“care”と利用者の意思“will”を第一に尊重したもののづくりを行いました。

異なる車椅子、異なる傷病・障害のある車椅子の利用者に試作品をお渡しし、声を聞き、改良を繰り返す中で開発されました。また、作り手のパタンナー（服の設計者）も指定難病で車椅子を利用する当事者です。



成果報告 ウェルフェアイノベーションフォーラム 2024

今後の展開

「ウェルフェアイノベーションフォーラム 2024」にて、「共創」による当事者に寄り添ったモノづくりの過程の発表を行いました。

個人向けには、2024年6月17日より、当社公式サイトおよび先行予約サイト「マクアケ」で初回販売を開始、福祉用具事業者などへの卸売販売も開拓しながら、本格的な量産を進めていきます。

また、各種展示会への出展、病院・施設向け勉強会・研修会、医療・介護職の学会、大学における授業を通じた製品紹介も同時に行っていきます。